

第2部 各部会の歩み

絵画部会

グループ数 5
会員数 77名

- ・東御美術会（昭和24年柘津美術会 33名として発足、町村合併により改称）
- ・くりの実会 昭和48年発足 7名
- ・絵画好遊倶楽部（まろにえ）
平成14年発足 14名
- ・みまき絵画会 平成12年発足 12名
- ・彩明会 平成20年発足 11名

絵画部会は、平成20年度の部会組織編成見直しを含め、この10年間で3グループ33名の会員増となりました。このことは東御市の生涯学習の推進の成果です。中でも油絵グループがまだ増加傾向です。最近の活動は、東信地域展、長野県展、東京展等の公募展に多く出品し、入選入賞する会員もいます。

各グループでは計画的な定例会、展覧会を開催し、技術向上と会員相互交流を更に推進し、将来は絵画部会展の開催を目指したい。

東御美術会は、本年で62年を迎えました。平成22年11月に発足60周年記念事業として、記念画集（カラー版）の発刊、記念展、記念式典が盛大に行われました。現在は高藤俊幸会長のもと水彩画、油彩画を中心に毎月2回の定例会をもち、静物、写生会を実施しています。展覧会は春期に会員展を秋期にはテーマ展を、湯楽里館ロビーでは3ヶ月に1回10名ずつ交代で開催しています。テーマ展は本年で14回となりましたがテーマを決めて描くことは技術力アップになっており、最近長野県展や東京展に多くの会員が出品し、入選入賞を果たしている。



くりの実会は、絵画部会に所属している水墨画クラブです。毎月2回の例会を開催し、各自の意にそう題材を選び、なごやかに話し合いながら作品製作に取り組んでいます。指導は先輩の小林光子さんをお願いし、技術を磨いております。作品展覧会は、東御市総合文化フェスティバル、上田創造館で開催される上小地域水墨画展に出品しています。市内では湯楽里館、高齢者福祉センター等に展示します。現在は会員年齢が比較的高くなってきましたので、今後の会の運営について対策を図りたい。



絵画好遊倶楽部（まろにえ）は、東御市生涯学習の卒業生がまだまだ油絵を学び続けたいとの思いで小宮山さん、平岡さんを中心にして、平成13年に立ちあげました。月2回の学習は、4月～11月上旬迄外に出て風景画に挑戦し、講師の桶田先生からも個々の性格や色使いを尊重し、明るく楽しくご指導を頂いております。展覧会は道の駅展、中央公民館ロビー展、合同展等、他に小山敬三公募展、第一美術協会公募展に出品する等、

会員は色々に挑戦しております。今年で満10年、また会員も上田、望月と仲間の輪が広がり、皆、まだまだ若い気持ちで描き続けたいと思っております。



みまき絵画会は、発足してから本年度で12年となりました。毎月2回の例会を開催し、作品の製作に励んでいます。人物・静物が主ですが、年に1回1泊2日で新潟方面の海岸風景の写生会も行っています。その際海の幸や地酒を味わい、会員相互の親睦も深めています。毎年、梅野記念絵画館で3月に約2週間全員で約30点程ですが、みまき絵画会の作品展を開催させていただいています。発足10周年となった21年度には、各自がミニキャンバスに自画像を描き、作品に添えました。あくまで自由で気ままな表現でありたいという思いで作成しています。



彩明会は、荻原芳雄先生を講師に、水彩画教室として平成20年に発足しました。発足にあたり会名のとおり明るく、楽しい会をモットーにして、絵に自分の感動を見る人に共感していただくような作品制作に努力しております。

毎月1回の定例会を構え風景画、静物画の技術を習得しています。展覧会は年1回春季に開催し、1人3点出品し好評です。また、会員数は少ないが長野県展、東信美術展、東京展等に出品し、入選入賞を果たしています。



絵画関係の生涯学習講座、教室の開設状況 (平成24年9月現在)

開設場所	指導者	講座内容
中央公民館	荻原 芳雄	水彩画、月1回 第1日曜日 15人
滋野公民館	吉田 澄子	水彩画、月2回 第2, 4水曜日 10人
滋野公民館	若林 邦宏	油彩画、月2回 第2, 4水曜日 10人
祢津公民館	高藤 俊幸	水彩画、月1回 第3金曜日 15人
和公民館	関 サキ子	水彩画、月1回 第4水曜日 10人



写真部会

グループ数 2
会員数 38名

写遊とうみ 会員 12名

一、会の結成と経緯

私達写真クラブは、平成17年 大和スタジオに集まる故赤尾武彦さんを初代会長として結成したクラブです。

遊びの感覚で写真を楽しみながら、より良い写真技術の向上と会員の親睦を計る事を目的に、名称は「写遊とうみ」に決めました。当初7～8名の会員が現在12名となりました。



二、その後の経過と活動

私達の活動内容は、例会を3ヶ月に1度開き、写真を持ち寄り意見交換をしております。年に1度の撮影会、昨年は新潟県松代町の棚田、松之山町の美人林を撮影して来ました。

また写真展を年1回、主に文化会館で開催しております。

更に長野県写真連盟に登録し、写真県展に積極的に応募して、毎年数名が入賞入選を果たしています。

写真を趣味としている方も多いと思います。写真は、撮りたい瞬間とシャッターチャンスが重なった時のワクワク感は言葉に言い表せません。二度と同じ物は写せない、そんな写真の魅力にはまった私もその一人です。

写真好きの方、一緒に写真を楽しみませんか？
入会をお待ちしております。

写団 SFC 会員 26名

一、会の結成と経緯

私達写団 SFC は、田中にあるサトウカメラ店の常連客から始まったクラブと聞いています。最初は男性だけの会員で、後に女性の会も発足し、別々に月1回の例会を開いていましたが2005年に男女合同の会になりました。



二、その後の経緯と活動

月1回の定例会を開き、各自の力作を持ち寄り参加者全員で投票し、1位～5位を選び上位5位までの作品を店のウィンドウに飾り道行く人に観賞していただいています。

また一年間の上位1位～5位の人に年度賞を贈って、トロフィーと景品を贈呈しています。毎年恒例の「ちいさなちいさな写真展」、福祉センターのほめあいギャラリー、文化協会のフェスティバル等の写真展に向けて個々に作品作りに取り組んでいます。

今まで東北、京都の紅葉、沖縄、海外の韓国等、希望者を募って撮影旅行を楽しみ、また近くの花火大会、各地のお祭り、モデル撮影会に出掛けて、コンテスト等に出品して、賞をいただく人も多くいます。

行事として新年会、暑気払い、一年の締め括りとして、一泊の忘年会を楽しく過ごしています。

写真と旅行に興味のある方、仲間に入って楽しく出掛けませんか？

会員も随時募集していますので、お声を掛けてみて下さい。

2グループのそれぞれの写真展に是非、足を運んでみて下さい。感動があるかも。

書道部会

グループ数 12
会員数 90名

1、書道部会の歩み

文化協会の30周年記念誌を開くと、書道部会のグループ数28、会員数223名と記されています。何と今の2倍以上です。ところがそれをピークに翌年は、実用書道の皆さんが「一緒に活動できない」とごっそり退会されるなど、19グループ159人になりました。さらに次の年は東御市になり、北御牧の会員も加わって「第1回記念書道部会展」を開催した年ですが、15グループ130人に減少してしまいました。主たる原因は高齢化だと思われます。

平成18年の研修旅行ですが、例年11月に実施していたのを9月に早めました。松本で「上條信山生誕百年記念展」が開かれ、それに合わせたからです。参加者も多く35名でした。

ところで会は縮小しましたが、旅行や展覧会の行事が定着し、互いのまとまりもよくなり、会の運営や活動はやり易くなりました。

2、年間の主な活動内容

(1) 研修旅行

研修旅行は毎年必ず書関係の研修を含めて計画し、しかも楽しくやってきました。では30周年以後の実績をお知らせします。

年度	月日(曜)	方面	主な見学場所	参加者数
15	10・17 (金)	望月へ	天来記念館、生誕の地 旧中山道望月宿	35
16	10・22 (金)	御柱の諏訪へ	諏訪大社本宮 原田美術館 泰雲書道美術館	31
17	10・21 (金)	甲州路へ	山梨県立美術館 市川大門碑林公園	30
18	9・22 (金)	松本安曇野方面	上條信山生誕百年記念展 荻原礫山美術館	35
19	10・19 (金)	良寛を訪ねて	出雲崎良寛記念館 国上山五合庵 信濃川治水紀功碑	29
20	10・17 (金)	千曲川に沿って	上山田万葉公園 姨捨長楽寺 松代象山記念館	27
21	10・23 (金)	佐久平めぐり	前山貞祥寺 新海三社神社 佐久市立近代美術館	30

22	10・22 (金)	塩田の仏塔	青木村大法寺 別所温泉安楽寺 塩田前山寺	21
23	10・21 (金)	伊那路の古今	高遠城址公園、美術館 かんでんパパガーデン	19

(2) 総合文化フェスティバル

例年11月初めに行われている総合文化フェスティバルは、シーズンをしめくくるよい発表の場として、積極的に参加してきました。半切以下という大きさの制限はありますが。

(3) 新春書き初め大会

毎年新年の5日頃に開かれる公民館主催の催しですが、書道部会は平成20年度から共催ということになりました。書き初めの指導をするという立場は変わりません。

(4) 書道部会会員展(部会展とも言う)

年度末には全員参加による会員展を開いて、まとめをしています。講堂を全部使って漢字、仮名、調和体等大小様々な作品が並びます。なおこの部会展に合わせ平成16年度は成沢臨舟先生、18年度は依田行舟先生、21年度は大口桂雪先生をお招きし、それぞれ展示作品を見て頂いたり、幅広いご指導を賜りました。

(5) その他の活動

香東会のように毎年独自に展覧会をしているところもあります。本年度はまた東御篆刻刻字会が中心になり、5月に「船田大嶺先生遺作展」を盛大に開催しました。なお高齢者センターの「ほめ合いギャラリー」に展示する作品を、毎年2回出品しています。

3、今後の課題と展望

やはり会員の減少は深刻な問題です。もっと若い人や男性にも入って欲しいと思います。それには日常の学習活動を魅力的に、しかも質の高いものを目ざす必要があります。



「平成20年、姨捨の俳句寺」

彫刻部会

グループ数 2
会員数 10名

一、部会の結成と経緯

昭和48年から、木彫り（町教養講座）の講師を、故中村運司氏が務めていた。現在の講師近喰和夫氏の師である。その後、元町収入役の大日向氏より依頼があって、近喰氏が後任をやることとなった。生徒数13名ほどで、木友会と称して、昼食持参、1日コースとして続けることとなった。昭和53年のことである。

二、その後の経過

近喰氏が指導推進しているのは、上小地方で、故山本鼎氏（明治15年岡崎市生まれ～昭和21年上田市で没）が提唱し、普及を図った農民美術運動に関わる木彫である。使われる木は、シナ、サクラやクルミ、朴の木など、身近なものである。題材は、石楠花やりんどう、柿やあじさいなど、それに伝統的な獅子舞、獅子頭など、文化遺産も取りあげられている。仕上げる形はいろいろで、壁飾りや鏡であったり、菓子皿、ティッシュボックス、楊枝入などの日用品も多い。色調は、以前は黒や茶など旧家屋に馴染んだものが多かったが、近年は明るい家屋に似合うよう彩色されたものが増えてきている。山本氏が農山村の農閑期に、いくらかでも生活の足しになることはないものかと考え、この地から広めたいと紹介したものである。



柿
中村にす
16

三、木彫活動の趨勢

木彫作品作りを業とする人は、上小で20数年前は25名ほどいたそうであるが、後継者不足は深刻で、現在17名ほどになっていると言う。基

本的にはすべて手作業のため時間がかかり、値が張ってしまうのが問題のようである。機械化もすこしは出来る作品もあるが、木をこよなく愛する心が離れていってしまう難点が大きく、これからの大きな課題と思われる。

四、当彫刻部会の現状

以前は5グループあったが、何れも高齢化が進んだり、少しずつ会員が減り、新しく加入する人も少ないため、現在2グループのみとなっている。ここ10年ほどの間に参加したイベントは、市総合文化フェスティバルで、他には、高山、井波方面への研修旅行、湯楽里館で展示会を行ったこともある。

また、仏像などを勉強して個展をやった会員も居て、好評を得たそうである。



五、今後の課題

木彫りを楽しむ人々は、世界中の至る所に居り、それぞれに特色のあるものが考えられている。木がある限り木製品が無くなることはなく、木版画などに発展した歴史がある。

プラスチック製の味気無いものに溺れることなく、本物に触れ続けていきたい。どんなものであれ、自然とふれあい、自然を育て大切に、自然の恩恵に生かされている事を忘れないよう、肝に銘じていきたいと思う。

（文責） 朴の木会 寺島

民謡部会

グループ数 15
会員数 128名

30周年後も毎年民謡部会発表会を年1回中央公民館で開催してきました。記念大会とか旅行など毎年のようにありました。いつも大勢の人達で賑わいます。現在は会員数が128人ですが、三味線部が28人です。だんだんお年寄りが増えて来ました。でも唄は年を取らないと申しますので民謡大会や唄会始めなど皆さん一生懸命に頑張っています。続けていけば唄あり旅行など楽しいことがたくさんあります。今年は2012年となり昨年は東日本大震災に大勢の人達が見舞われ多難な年でした。一日も早く被災地の復興をお祈り申し上げます。民謡の社会でも、苦い唄あっちへ行け、甘い唄こっちへ来い。胸をわくわくさせながら、唄った経験がありましょう。

今年で33回目の発表会となりますが、これも第一に依田先生の熱心な御指導のたまものだと思います。30年間も続いている民謡部会の皆さんの皆さん達も本当に喜んでます。旅行に大会や民謡に一声掛ければ集まって来ます。これが先生の人柄だと思います。背中が丸くなっても足や腰が痛くてもいつまでも頑張ります。

尺八の唄を是非練習したいとの希望がありまして尺八の大塚英男さんに依頼して第2火曜日第4火曜日の1時から5時までサンテラス練習室でレッスンしています。希望の方はお出掛け下さい。これからも元気で唄い続けましょう。



料理部会

グループ数 2
会員数 10名

1. 部会の結成と経緯

料理部会は、平成21年に発足しました。現在2グループ10名、それまで「せせらぎ部会」で活動していたグループです。

2. グループの紹介

(1) キャロットパン 会員6名

平成11年の生涯学習で1年間宮尾先生の指導の下、パン作りを学びました。平成12年3月より、町の手作りパン教室OB会「キャロットパン」を結成し、活動を開始しました。月1回、市の調理室をお借りし、パン作りの腕を上げるよう教材を使い、美味しいパン作りを行っています。



キャロットパン

(2) モナリザ 会員4名

平成9年度の「いきいき学習講座」で赤木恵美子先生の「イタリア料理」を1年間学んだあと、引き続きOB会として12名で発足し、平成11年8月に加盟しました。先生には平成22年度まで指導をお願いしました。現在は身近な食材で少し手間のかかる料理に挑戦中です。



モナリザ (たけのこと手羽先の煮もの)

舞踊部会

グループ数 26
会員数 89名

一、歩みの概要

文化協会発足 30 年から 40 年にかけては舞踊を取巻く環境が大きく変化した 10 年でした。

長年参加して参りました町の祭りも「雷電まつり」の頃は『東部町音頭』と『ジャンピング東部』でしたので、舞踊部会の部員が“連”の先導やステージでの出演など活躍の場がありました。しかし東御市となってからの市民祭りはダンス一色の『ハートつないで TOMI, to me!』となり、高齢の部員にとってはちょっと苦しいものになりましたが、市の職員やボランティアの皆さんと共に普及活動に努めて参りました。昨今ではその甲斐あって市民の皆さんにも浸透してきました。

更に東御市になったことで活動の場も増えて参りました。それは、旧北御牧村時代から開催されている「火のアートフェスティバル」への参加です。市外からも大勢の人が集まるこの祭典に期待が高まります。

また、年 1 回の舞踊発表会の演出もこの 10 年間に変化を遂げてまいりました。回を重ねる毎に舞台の使いこなしが上達してまいりました。さらに会館の照明や音響等の設備が新しいものに入れ替えられたり、会館の運営が変わり照明等の演出を専任のスタッフに手がけてもらえるようになるなど、より一層見ごたえのあるものになりました。

また、この舞踊発表会の模様を録画したものを上田ケーブルビジョンに加え、とうみケーブルテレビ（旧みまきケーブルテレビ）でも放送をお願いし、より多くの皆さんに見ていただけるようになりました。

しかし、このようにして毎年年度末に必ず行ってきた舞踊発表会も 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災のために開催が危ぶまれましたが、開催時期をずらし 7 月に震災復興を応援する気持ちで行なうことが出来ました。その後は、平成 24 年 3 月に第 33 回舞踊発表会を開催致しました。

二、主な活動内容

年間事業として継続して活動している大イベントは、何と言っても年度末に行なってきた「東御市舞踊発表会」です。

プロと同じ舞台設備でプロスタッフの手による演出で行われる舞踊発表会は、1 年間の活動の成果の発表の場であり、部員の励みでも有り、また部員全員が一同に集まったの交流の場であり、他のグループの踊りを見ての学習の場でも有ります。この発表会は出来映えを競う会ではないのです。すなわち、この活動を通じて心を豊かにし、毎日の暮らしに「はりあい」「いきがい」を持ち、「ふれあい」「感動」「よろこび」を一人一人が感じ、更にはより一層深く大きな「かんどう」や「よろこび」を得るために自分だけにしまっておくのではなく、それを他者と共有するところに、その「よろこび」は一層倍加されるものと思います。

豊かな人間性を養い、会員相互の研修を深めるとともに生きがい有る生活への指向と、市民文化の向上に努めて来ました。その他各グループ毎に、老人福祉大会のアトラクションへの参加、各区の敬老会、芸能発表会、盆踊りへの参加、老人ホームへの慰安、火のアートフェスティバルへの参加など、流派を超えた和やかな集まりとして活動してまいりました。

また東御市になった当初、市の職員やボランティアのみなさんと共に市民まつり運営スタッフとして盛り上げることが出来ました。

三、今後の課題

踊ることは健康にも良いものと言っても年と共に部員全員が歳を取って来ており、子供たちの入会は有るものの、中年層の年代の入会が少なく部員数の減少傾向にあります。踊りを個人的には習っているがグループとして活動していない市民や、これからやってみたいと言う人をいかに入会に結びつけるかが今後の課題となっています。

詩吟部会

グループ数 2
会員数 40名

一、聖風流の歩み

詩吟部会は聖風流東部吟道会及び岳照流日本誠吟会東部支部の2つの流派が活動しております。聖風流東部地区につきましては、平成23年度に創立40周年記念大会を行なうことができました。高齢化そして趣味の多様化の情勢の中で、現在の会員数は30人位となっておりますが、毎月の教室に健康維持に励んでおります。

平成10年には聖風流宗家先生が92歳の高齢で逝かれました。現在は財団法人日本吟剣詩舞振興会に加盟しております。

現在の聖風流会員数は詩吟、詩舞合わせて500人位となっております。

東部吟道会は漢詩、和歌、俳句、新体詩など読まれているその時代に思いはせながら、ストレス解消、下腹を使った発声、良く共鳴する声等技術が向上してくることに、この上なく喜びを味わっております。

二、聖風流の年間行事

1、東部吟道会温州大会

合吟と個人吟、詩舞の発表会

2、聖風流本部大会

春、雅号別個人コンクール

秋、合吟コンクールと詩舞、剣舞、構成吟などの発表会

3、全国吟詠コンクール

県予選、中部予選、全国決戦とあり幼年10才から70才以上

4、全国少壮吟詠家コンクール

聖風流からは1名が少壮吟士となっております。

5、日本クラウン全国吟詠コンクール

6、全国剣詩舞コンクール

7、全国吟剣詩舞道合吟コンクール

武道館大会

1チーム55名の出場で全国で50団体

聖風流は男女とも出場しております。

以上各大会に参加しながら技術の向上に又楽しみながら健康維持に頑張っております。



東部吟道会温習大会（於 中央公民館）

三、岳照流の歩み

岳照流日本誠吟会東部支部につきましては、平成9年、宗家高橋岳照先生が岳照流詩鈔を出版されて、先生が他界された後も必須本として宝物化しています。

小諸駅前には岳照会館があり、師範会及び各教場支部の活動拠点となっております。

吟道は人の道であり作者の心の中に解け込み豊かな教養を高めるものと思います。人と人との触れ合い連帯感を大切に、吟を通じて社会に貢献出来る事を望み、多様な稽古に励んでおります。

四、岳照流の年間行事

1、定期発表会（岳照流本部大会）

2、東部支部大会

3、テイチク杯予選

4、テイチク専属コンクール（東京5月）

5、テイチク松口月城杯

6、藤村記念式典参加



平成21年 全国吟剣詩舞合吟コンクール出場
（於 日本武道館）

合唱部会

グループ数 10
会員数 153名

合唱部会は、2002年の役員改選で、部会長、黒柳隆次、副部会長庄村茂、事務局春原礼子、荒川郁代の4名で新たなるスタートをした。

当時は、9団体、団員136名で活動をしていた。この10年の月日は、とても早くあつと言う間に過ぎ去った気がする。30周年記念誌を故土屋征志郎さんがお書きになったのを改めて読み返すと、10年間の思い出が走馬灯のように頭の中を通り過ぎ、今歌い続けていられることが当たり前のことなのに、とても幸せなことだと気付かされる思いである。

2004年、旧東部町、北佐久郡北御牧村が合併し、東御市となる。

合唱部会の加盟団体にも変遷があり、長年活動をしていた「浅間混声合唱団」の退会、新たに「ムーミン」、「コールアカシア」、「コール・ライディーン」が入会し、現在、10団体153名である。

部会では、年に一度、毎年恒例の合唱祭を開催し、日頃の練習の成果をステージで発表し合い、更なる向上を目指し日々努力している。



ふるさとの四季

2006年に、部会長庄村茂、副部会長荒川郁代、事務局坂口光枝となり、本年3月まで活動した。各団体個々の活動として、定期演奏会、地域のイベント参加、学校、保育園行事に参加など活動の場を広げている。

2011年11月には、20周年記念イベントとして、一般市民も交え、「ふるさとの四季」を歌う会を、第8回東御市合唱祭で、山丸洋子先生指導のもと、披露させて頂いた。



メリーウィドウ

そして、2012年6月に同じく記念イベント、喜歌劇「メリー・ウィドウ」を高木房雄先生指導でソリスト5名を迎え、上演の運びとなり、大盛況で終わりました。会場まで足を運んで下さった方々には感謝の気持ちでいっぱいである。この場をお借りして御礼申し上げます。

今後の部会の課題として、まず合唱人口の増加、個々の技術の向上、セミナー参加、若手の育成を目指し前進するのみである。

2012年役員改選で、新部会長荒川郁代、副部会長渡邊洋子、事務局原沢美香の3名で、文化協会発足41年目のスタートの年となり身の引き締まる思いです。今後ともよろしくお願い致します。



華道部会

グループ数 6
会員数 67名

草月流

花香会 佐藤 充子

机の上で花器を使っていけるだけでなく、文化フェスティバルの時など舞台や、成人式の会場など、自由に創作出来る楽しさや、花とのかかわりを大切にして、生活の中に彩を添えて行きたいです。

日本の文化のいけ花を多くの人に、いつでも、どこでも、だれにでも、を基に、これからも、どんな花材を使ってでも、いけられるように、楽しく、学び続けて行きたいと思っています。

遠州流

小林 清枝

遠州流は、当初から加入しております華道部には、いろいろな流派があります。また、年代も様々な皆さんですが、お花を愛する心は同じであり、仲良く楽しく、毎年文化フェスティバルに参加しています。

習ったお花を家庭に飾り、潤いのある生活を送る様、心がけたいと思います。

小原流

松本 房子

小原流が文化協会に入れていただきましたのは、30数年前位です。

他流の先生方と、和を持ち楽しみながら研鑽をつんでいます。小原流は明治中末期に盛花の花型を考案して成立し、現代はどの場所にもふさわしい花を追求し活動しています。協会会員も、いけばな教授となり、教えている人もいます。花と対話し、気持ちを癒してくれる花そのものの美しさを求めて、これからも多くの人達との出会いを大切にして、いけばな講座を続けたいです。

草月流

寺島 睦子

私が東御市文化協会に参加させていただいてから、もう大分歳月が経ちました。おかげ様で多くの方々との出会いがありました。

昨年の東日本大震災以来「絆」という言葉がよく使われます。草月流は「いけ手と個性を尊重する芸術としてのいけばな」として創られました。いけばなを通じて人と人がつながり合い、心を通わせ合うことができる魅力があります。そして生活の弾みにもなります。

古流松藤会

細山 絨子

私は田中の公民館で、絵、書道、いけばななどの展示が年一回あり、その頃より参加しておりました。文化協会へは最初から入会しており、休まずフェスティバルに、いけばなを、会員と発表して来ました。古流松藤会は格調高い伝承生花、個性豊かな現代華を会員の研鑽と協力のもとで、日々新しい一歩につなげています。生活の中にいけばなを取り入れて季節感を楽しんでみましょう。

これからもいけばなを続けていきます。



茶道部会

グループ数 4
会員数 29名

泉会 6名

日本の伝統文化に触れ、茶道のお点前と共に、礼儀作法を学ぶ、という趣旨のもと、平成10年より始めて13年が経ちます。でも、伺うところによれば森泉先生は、昭和57年から頼まれ、途中若い人にバトンタッチしながら、ここまで休まず続いたという事で、如何に、利休流の茶の湯が愛され、又、市の御協力があつたかと思いを馳せております。

文化協会に加盟以来、みどり会グループと会員の入れ替えはあるものの、人数的にあまり増減は無く、年間の活動としては、普段のお稽古と共に、発表の場として、総合文化フェスティバルに隔年で参加して、来場者へのおもてなしをしてまいりました。

又、東部中学校の1年生と茶の湯の交流もあり、喜んでいただいております。

これからも生涯学習を通して、お茶の心を大切に、多くの人に知っていただいて、広めて行かればと思っております。

菜の花会 9名

平成6年中央公民館の生涯学習の茶道教室を受講したのがはじまりで、その後OBにより菜の花会ができました。生涯学習の最後の発表会の時のお茶席に菜の花が飾られていたので会の名称にしました。6名からはじまりましたが途中増減があり現在は年度のちがう茶道教室の方たちも加え9名となり阿部先生のもと月2回おけいこに励んでいます。

総合文化フェスティバルでは1年おきに市民の皆様の日頃のお点前の成果をみていただいております。茶道は奥が深くお茶の他、華道、書道、陶芸、懐石等々いろいろな物とかわりがありそれがまた日常においての糧となり人生を豊かなものにしてくれます。

これからも楽しみながらおけいこに励んでいきたいと思っております。

みどり会 5名

市の「いきいき生涯学習塾」で茶道の基本を学び、その奥深さを知り、続けて学んでいきたいと、平成20年度から文化協会に加入させていただきました。

主に中央公民館の和室をお借りして稽古に励んでいます。時には泉会のみなさんと合同での稽古もあります。

秋に開催される総合文化フェスティバルにも泉会のみなさんと一緒に参加させていただいています。会場を訪れる皆様とお茶を通してふれあうことができ、貴重な経験をさせていただいています。



〈初釜〉



〈総合文化フェスティバル〉



〈発表会〉

宗志会 9名

「あゆみ」の40周年記念誌の発刊に当たり、茶道部会も協会と共にこの歳月を歩んで来たことに感慨新たなものがございます。

表千家宗志会は、茶道部創始者の故寺島宗郁先生のご遺志を継いで、一昨年他界なされた故寺島志づ先生のご指導の下に、地道に、息長く、お稽古に発表会に、また、他団体の茶会にと積極的に参加し活動して参りました。協会の活動としては、中央公民館の茶道教室や滋野公民館の茶道教室の活動に、協会のイベントへのボランティア参加等、宗志会メンバーが各分野で活動しています。

茶道は千利休以来、数世紀に亘る日本文化の真髄を伝える芸道であり、茶の心を通して私達にもてなしの生き方を教えてくれます。先達の両先生はじめ皆様様に感謝しながら、一層の精進を重ねて参りたいと考えています。

手芸部会

グループ数 9
会員数 67名

各グループの歩みと活動の様子

〈編物教室〉

1. もくれん会 昭和 56 年発足 5 名
2. むつみ会 昭和 62 年発足 6 名
3. ひつじ会 平成 2 年発足 6 名
4. 毛糸の輪針 平成 20 年発足 8 名

1～3のグループ全員が小林知美与先生の下、基礎編みから型形の引き方までを長年にわたり細かくご指導いただき、個々に編みたい物にチャレンジしています。

古くなった毛糸は解いて別の作品にリメイクしたり、無駄なくエコです。月2回の教室でボケ防止のために頑張っています。

4. のグループは尾形芳江先生のご指導の下「毛糸の輪針」を発足しました。

月2回の教室で、輪針を基本とした簡単な編み方でつなぎ目のない着やすい技法を学んでいます。仲間と共に楽しい教室です。

〈人形教室〉

- ・さくら会 昭和 48 年発足 9 名

「あゆみ」も 40 周年の由おめでとうございます。

私も数年前より講座に入れていただき、大勢の方々とは語り合える事も社会参加への一歩と思います。

月2回の製作活動で少しずつ作品ができる事に幸せを感じ励んでおります。

日本にしかない和服姿の人形を、共に助け合い、笑顔で人生の宝と思いがんばります。

〈リフォーム洋裁教室〉

- ・リフォーム洋裁 平成 16 年発足 14 名

物を大切にしたい気持ちをもった人達が集まり、和服の布や帯で、洋服や小物を作ったりのグループです。

月2回の教室で午前10時から昼食をはさんで午後2時まで学びます。皆で話し合いながら、個々に好きな作品に仕上げていきます。でき上がると皆さんに見ていただきます。

リフォームした洋服やバックを持って、文化祭の時にステージで披露したく思っています。

〈ビーズピュア〉

- ・ビーズピュア 平成 23 年発足 5 名

月一度の講座ですが、ビーズの世界を皆さんで楽しんでいます。

クロッシュという編む技法、ビーズステッチは針と糸でつむいでいきます。さまざまな技法を使って、じっくりとマイペースに学んでいきます。

2年目の講座ですが、たくさんの方々から知っていただけたらと思います。

〈パッチワーク教室〉

- ・なでしこの会 平成 20 年発足 11 名
- ・もめんの会 平成 3 年発足 4 名

生涯学習が始まってから40年目との事。子育て、勤めも終わり、今パッチワークを楽しんでいます。

一針一針の細かな作品作りですが、色の組み合わせで別の作品に仕上がります。

会の作品を見せていただきながら、月2回の学習に仲間と共に励んでおります。



〈パッチワーク〉



〈リフォーム洋裁〉



〈編物〉

工芸部会

グループ数 15
会員数 123名

ステンドグラスクラブ 会員数 24名

平成15年依田清子先生御指導のもと、いきいき生涯学習から始まり、その卒業生が、16年度にグループを作り今日に至っております。教室は月1回2つのグループに分れて作品作りに励んでおります。基礎を勉強した後は、部屋のランプ、玄関のランプ、はめ込等、思い思いの作品作りを楽しんでいます。

何といっても出来上がった作品に灯を入れた瞬間の感動が、たまりません。



和紙ちぎり絵 会員数 10名

故柳沢はまよ先生の後、新井先生と今のメンバーで4年続けています。

和紙を色々な草花を使って染めています。

染めは重要で、有意義な活動です。これからも和紙の染めと展示を中心に楽しく活動していきたいと思います。

折り紙クラブ 会員数 2名

活動としては、福祉団体や、児童クラブ等に出掛けて、教えております。中央公民館入口右側の展示コーナーに、季節季節の作品を展示しております。日本古来から伝承されている折り紙ですので、幅広く伝えていきたいと思います。

レザークラフトからくさ会 会員数 10名

中央公民館の教養講座で卒業生の有志で、昭和63年に「からくさ会」を発足させました。からくさはレザークラフトのデザインに多く使われるので、会の名前にしました。

牛革や豚皮を使って、財布、バック、鏡等実用性がある個性的な作品を作っています。毎年総合文化フェスティバルに出品。又15周年、20周年にはギャラリーで作品展を開催、好評でした。会員の高齢化もあり、手間のかかる工芸のため出来上がる作品数は少ないですが、あせらず仲よく続けたいと思います。

押し花クラブ 会員数 10名

若林みどり先生ご指導のもと、14年が過ぎました。月1回四季折々の草花、野菜、くだもの等を乾燥させ、風景や、動物、鳥、花等を作ります。押し花は自然の草や花等で色々な表現をする事ができ、美しさを長く楽しめる事が魅力です。

フラワーアレンジ あい 会員数 5名

2011年より始めています。

お花を活けた後のお茶会を楽しみに、月2回ほど活動しています。

籐青会（籐手芸） 会員数 5名

昭和60年に発足し、月2回青木嘉子先生にご指導をしていただき、和気あいあいと、各自それぞれインテリア用品、籠、バックなどを作り、ギャラリーなどで展示会を開いたり、総合文化フェスティバルの作品展に参加をしています。籐手芸は素材をはじめとし、編み方、組み方など、とても奥深いものがあります。これからも、より高度で、素敵な作品作りにチャレンジしてまいりたいと思います。

七宝会（七宝焼） 会員数 5名

平成8年東京より専門の堤橋先生にお願いをして、基礎を学びましたが、現在は月1回皆で学び合っています。七宝は焼く都度違うもののでき、特にマーブル法は、面白い作品になり、魅力がありますので、何とか続けております。

ローザ（フラワーアレンジメント） 会員数 5 名

平成 19 年 2 月から活動を始め毎月 2 回、活け方の基本、花あわせ等のポイントをおさえながら、季節にあわせたテーマ、花材で学んでいます。始まりは生きがい講座からでした。講座が終了しても、まだ続けたい人が声をかけ合いスタートしました。作品展などに出展していきたいと思います。

わかば B（パン粘土） 会員数 5 名

約 10 年前から、パン粘土として立ちあげて、花や人形等を製作しています。最近は先生のご厚意により、編み物もやっております。

少しでもボケ防止になればと、皆さんで和気あいあいと過ごしております。

フラスターサークル 心愛 会員数 9 名

2006 年発足、月 2～3 回活動。年 1 回イオン佐久平店、小諸あぐりの湯にて作品展をしています。アレンジメント製作後、花をみながら、おしゃべりを楽しんでおります。

八装会（表具） 会員数 8 名

毎月 1 回自分で書いた書画、家に眠っている古い書画等を持ち寄って、製作表装をしております。書や絵を書いた紙または布を、ほかの布などに貼って、巻物や掛軸に仕立てます。色紙掛、短冊掛、茶掛、長尺掛、裂表装等を取り入れ製作に取り組んでおります。

トール&パッチ（ビーズ） 会員数 8 名

2003 年「たけのこ学級」卒のママ友中心に、子育て中でも、子連れでも、趣味のパッチワークや、ビーズを楽しむ会として発足しました。その後ビーズからトールペイントに内容を変え、現在は、トールペイントとパッチワークを週に 1 度交互に行っています。

子育て中のため、なかなか自分の時間が作れないので、小物製作が中心ですが、今後は大きな物も製作してみたいと思っています。

マーガレット（フラワーアレンジメント）

会員数 10 名

10 年前に発足し、毎月 1 回、2 時間ほどフラワーアレンジメントを楽しんでいます。

季節の花をふんだんに使って、基本の形から、応用まで幅広く学んできました。クリスマスのアレンジは、長期間、保存のきくプリザートフラワーを使ったり、お正月のアレンジは、ウィンドウで見かけるような、豪華で品のあるデザインに仕上げられています。

文化祭にはテーブルアレンジ、ブーケ、壺や大きな木、枝を使った大作にも、挑戦してきました。これからも花のある暮らしを心がけ、癒される時間を継続していきたいです。



マーガレット



レザークラフト

ハーティフルフラワー（樹脂粘土）

会員数 5 名

平成 19 年から始まり、月 1 回、楽しく活動しています。毎年総合文化フェスティバルに出品しています。これからはいろいろな作品作りに挑戦していきたいです。

園芸部会

グループ数 4
会員数 77名

一、部会の結成と会員数

この部会は、花、野菜作りの技術向上と会員相互の親睦を図ることが趣旨です。

グループ名	開設年	会員数
東御市菊花会	昭和 46 年	12 人
茜の会	平成 16 年	23 人
東御アグリ会	平成 23 年	18 人
東御バラの会	平成 23 年	24 人

二、各グループの活動

〈東御市菊花会〉

菊花会では総合文化フェスティバルに合せ菊花展を開催しています。

設立 41 年経過し、これまで続けてこられたのも諸先輩方の菊づくりに対する、熱い思いの賜物であると思います。

菊は単に美しいからというだけでなく日々丹精こめた手入れに応じて、より美しく咲いてくれる「育む喜び」を味わえる園芸でないとは長続きしません。

菊づくりは難しい、管理が大変だという様な先入観が先にたって敬遠されがちですが、いくつかの大切なポイントを押さえて、愛情を持って熱心に栽培管理をすれば、初心者でも秋には、りっぱな大輪の花を咲かせることが出来るでしょう。

会員募集中です。門を叩いてみてはいかが。栽培技術講習会も時期に合せ開催します。

〈茜の会〉

生涯学習草花に親しむ会の OB で結成された茜の会は、平成 16 年より春原先生の元に月 1 度活動しており、早 8 年の歳月になりますが、活動内容は菊の福助作り、サギ草、種蒔から草花の育て方などを学び、草花の成長を楽しみながら、家の回り（マイガーデン）に咲く花を楽しんでおります。そして増えていくのが喜びの日々です。

時には、野生園を訪れ、見事に咲き乱れる花々

に感動し、生活に潤いを与えてもらい忙しい日常から外出する機会に恵まれ、気分転換にもなります。益々人生の共としてお付き合い願いたい会ではないかと思えます。

又、同じ東御市内に居ながらひょっとしたら出合う事が無かった人達との出会いがあったりで、そんな事にも感動です。

〈東御アグリ会〉

「東御アグリ会」は平成 22 年度東御市公民館主催の生涯学習講座（楽しい家庭菜園教室）の卒業生により自立したグループとして平成 23 年 3 月に発足した新しいグループです。

「家庭菜園」は「健康志向」やら「地産地消」それから「耕作の楽しみ」等々と言った多方面から今ブームとなっており、「やってみたい！」と言う希望者は大勢おられることと思います。

「野菜作り」について「体系的」に勉強が出来ることから、初心者は勿論のこと永年の経験者についても改めて勉強になっているようです。現在は講師に「山宮君夫先生」をお招きし楽しい野菜づくりを実践しています。

興味の有る方は連絡下さい。

TEL.62-0125 貢（ミツギ）宛

〈東御バラの会〉

昨年 8 月に新加入させていただきました、東御バラの会です。

文化会館中庭で、バラを育てていた所、たくさんの方々より、バラの育て方等の質問をいただき、それではいっしょに勉強しましょうという事で、この会を立ち上げました。

実質的には、昨年 12 月より、剪定、植え替え等の勉強会を、月 1 回のペースで、開いております。

挿し木をした苗を、各人方々、1 苗ずつを担当し、育てている所です。

又、今年は近くのバラ園、バラ育苗家の所をたずね、勉強会を開く予定であります。

8 名で発足した会が、今は 24 名までになり、バラ愛好家の方々がたくさんいらっしゃるのを、実感しております。

いつでも入会 OK ですのご連絡下さい。

短歌部会

グループ数 3
会員数 24名

一、部会の結成と会員数

東御市の短歌は、文化活動の中の短歌講座に矢島米人先生、藤沢幸江先生方のご指導を得、有志が集い学ぶようになって現在に至っています。この10年の間に先生方の高齢のため「かわせみ」「草笛」が休会になってしまい有志で公民館を離れ各自勉強中と伺っています。

グループ名	開設年	会員数	現会員
とうぶ短歌会	昭和48年	13人	7人
東詠会	昭和54年	8人	9人
短歌蒲公英	平成9年	16人	8人

二、その後の経過と主な事業、今後の課題

とうぶ短歌会

昭和40年に荻原勝（号静湖）さんが数人で短歌会を作られた。これが「東部町短歌会」で、市制に伴い「とうぶ短歌会」と改称した。歌会の当初は通信制だったが、その後現在の毎月1回公民館で開くこととなった。会は司会者を置きプリントの無記名の歌を批評し合い、反省の資とし、研鑽の糧としている。先生のお褒めの言葉、助言や添削に一喜一憂し、目からうろこ、時には大爆笑も起きる。私共の合同歌集「扇状地」の序に小林先生は、烏帽子、三方ヶ峯の裾野に展開する扇状地に於て、誠実に労働し、生活する中から詠出した作品とお書き下さったが、作歌姿勢は今も全員で引き継いでいる。

小林一義先生、飯島守夫先生、宮崎盛登先生、お世話になった先生方はそれぞれ亡くなられ、現在は小諸市の鍋島美春先生にご指導いただく。市短詩型文字祭、総合文化フェスティバルに参加。短歌にご関心がお有りの方どうぞお入りを。

東詠会 私達のあゆみ

初期の頃は旧東部町祢津の矢島米人先生にご指導いただき短歌の基礎を築くことができました。平成4年5月より上田市の宮崎盛登先生に11年

間のご指導をいただきましたが、ご病気により平成15年5月より長野市の宮澤渉先生をお迎えしての勉強会となり、現在に至っております。

毎月1回の定例歌会、年1回の吟行1泊旅行、文化祭、ほめあいギャラリーへの出品を行っております。

尚合同歌集「吾亦紅」発行の経緯ですが平成8年第1集発行、平成11年第2集、平成14年第3集、平成17年第4集、平成20年第5集、平成23年第6集、と順調に発行することができ私達の足跡を残すことができました。現在会員は9名です。少しでも新しい同志を増やしたく又、会員一同先生の教えを胸に良い歌を作りたいと努力しています。

短歌蒲公英

発足より13年。月1回一度も休まず続けこの3月にて166回を迎えた。

念願だった合同歌集の発行は、会員の福島英雄さんによる手作りにて4冊の発行、まさに蒲公英の宝物である。

短歌会では作品一首一首声を出して詠み合わせ、各々に批評し、また自分の好きな選歌した先人歌人の作品から、表現の研究などをし、自分の作品向上に役立てて来た。

春と秋には吟行会を計画し、翌月には吟行作品を課題として旅の思い出をふたたび楽しんで来た。ほめあいギャラリーへの出品、総合文化フェスティバル出品参加、毎回加えていただいた。

中央公民館、第4学習室、第2水曜日
午後1時30分から4時、のち茶話会

上記にて静かに楽しく学ばせて頂き何より恵まれた環境に深く感謝している。

この3月まで指導をして来た小河原ときは先生が、体力、気力の限界により退かれることとなりますが、蒲公英は新しい指導者を迎え続け、新会員を心よりお待ちしております。

俳句部会

グループ数 3
会員数 29名

一、俳句部会の変遷

文化協会発足 30 周年を迎えた平成 14 年（2002 年）当時、石榴、石楠、噴煙、木耀、るつぼ、の 5 グループあった俳句部会は高齢化の波に押し流され漸減し、40 周年に当たる本年はこまくさ句会（石榴改名）、木耀句会、るつぼ俳句会の 3 グループになってしまったが、各グループとも 10 人前後と少数ながら意欲的に活動を続けている。

俳句部会発足以来 10 年間部会長を歴任された石井補人（俳号 塵外）氏は生前、長年に亘り石榴、噴煙、石楠の句会でご指導をされ、東御市短詩型文学祭の開催に尽力された。また、湯の道の沿道、奈良原の池周辺に比類なき壮大な句碑を有志 40 名と共に建立された事は特筆すべきことである。この句碑の近くには石井氏自らの句碑が今なお句碑守の如く静座している。



石井塵外氏の句碑

二、各句会の実情報告

こまくさ句会（石榴句会を改名）

講師石井塵外氏亡き後は森泉透氏を実質的指導者として、毎月第 3 日曜日の午後、中央公民館、文化会館などの一室を借りて句会を開き、会員は皆時の経つのを忘れていてる。

年 1～2 回の吟行会を東信の各地に求め、これまた皆の楽しみの一つになっている。会員のほとんどが結社「黒姫」の会員になり隔月ごとに発刊

される俳誌「黒姫」への投句を怠っていないし、毎年行われる東御市短詩型文学祭に多数応募して中には町長賞（東部町当時）や市長賞を受賞した会員もいる。

木耀句会

平成 10 年に東部高校開放講座「楽しい俳句作り」で学習の後、翌 11 年、木耀句会として新たに発足し、現在 12 名で月 1 回の句会を中央公民館で行っている。

講師窪田英治氏の指導のもと俳句の基礎学習とより品格のある詩型を目標に 4 句投句し選句を通して会員相互の親睦も深めている。

また窪田講師の指導しておられる他のグループとの交流も年 2～3 回あり、吟行会、鍛錬会、研究会等々にも積極的に参加している。

るつぼ俳句会

るつぼ俳句会は昭和 40 年 4 月、千曲市稲荷山で齊藤臥龍師によって創刊された「俳文学」で「増埜」→「るつぼ」となった結社の俳句部会に所属し、東御市の文化活動に参画してきた。今後も故人となられた諸先輩の意思を受け継ぎ、日本の伝統文化である俳句を大切に受け継いでいくべく活動している。本年 9 月俳誌「るつぼ」は 553 号の発刊を迎えた。

るつぼ歴代の齊藤臥龍、伊藤文緒、唐木培水、山本美紗、猿渡藜子主宰の下にある東御市・上田市の会員は月 1 回の勉強会と毎月の投句を欠詠することなく続けて来ている。

三、主な年間事業

俳句部会の三句会が共通して参画しているのは下記の通りである。

- 東御市総合文化フェスティバル
- 東御市短詩型文学祭
- 東御市福祉センターほめあいギャラリーへの俳句作品の展示

四、今後の課題と展望

高齢化に伴う会員の漸減をどう克服していくかが喫緊の課題であり、不可避な課題でもある。

（塩野入靖夫）

陶芸部会

グループ数 3
会員数 20名

陶芸の魅力は、何と言っても「土」からくる温かい味わいだと思います。

土の素材は、陶器として、とても優しく馴染み、使い勝手の良さが人々に好まれ、自分だけの作品で飲むコーヒー & お茶や料理に合ったイメージの食器など、オリジナルの陶器を作る喜びも魅力の一つでしょう。

陶芸部会は、中央公民館の完成時の80年から、山崎先生のご指導の下に始まり、中央公民館主催の教養講座受講生・生涯学習の修了生など焼き物に興味をもった人々が加入し、趣味の道を少しでも前進しようとする意欲で活動してきましたが、この10年間で、グループや会員数に変動があり、現在は「炎群・土呂～美・クラブ器」の3グループの20名で活動しています。

炎群グループ 会員数 5名

陶芸部会発足当時のグループで、山崎先生のご指導の下に、メンバーは少しずつ入れ替わりましたが、月2回の作陶と学習会を重ね、岐阜「美濃陶磁歴史館」や「愛知県立陶磁資料館」の歴史有する産地の視察や山崎先生の薪窯で窯焚きの勉強と釉薬等にわたり学習・研究をしています。

今までのメンバーの内3人が美術展に入選し、新協美術会の会員になられた故青木一夫氏の遺作展を昨年、炎群OBらの作品とともに開催しました。青木氏の遺作は、穏やかで・凛とした強さを秘めた作品でした。これからも切磋琢磨し、よりよい作品を目指して日々努力していきたいと思ひます。



土呂～美グループ 会員数 10名

土呂～美は、土を愛する美人の仲間という事で2001年9人で発足して12年目をむかえました。メンバーは号程入れ替わり美人は？ですが、心の美は皆もって先輩の意志を受け継ぎ活動しています。

粘土選びから本焼まで毎回毎回、試行錯誤で粘土と本焼で悪戦苦闘することもたびたびです。本を見、多くの作品を見、陶芸をやっている人、やった事のある人の話を聞きヒントにしています。芸術作品には、ほど遠いものですが、実用的で愛着がありすぐ使える作品を目標に人に左右されず、自分で作りたいものを作っています。釉薬も市販のものだけでなく、自然灰のいくつかに挑戦しています。

研修として昨年は信州新町、今年は益子町へ行ってきました。

心のかよう気楽な仲間達と長く続く会にしています。

作陶日毎月：
第2・第4木曜日



クラブ器グループ 会員数 5名

当グループは、2010年度のいきいき生涯学習塾「陶芸教室」の生徒で終了後、続けたいと希望した仲間5名のメンバーで構成しています。

私達は、小学校の工作の授業で、皆で山に粘土を取りに行ったり、土を練ったりした思い出はありますが、陶芸については、全く知識のない初めての者ばかりでした。始めのころは、なかなか自分の思うようにならない作品作りでしたが（今でも思うようには行きませんが）、陶芸が日々楽しくなり、文化協会に加入し2年目となりました。まだまだ未熟な者ばかりです。しかし、陶芸を始めて3年目、お互い徐々に成長して、作陶時の集中力、完成時の満足感、自作品鑑賞時の次の作品への意欲等、自分が歳よりも若々しい充実感を感じられるようになり、これからも充実した活動を続けて行きたいと思ひます。

音楽部会

グループ数 7
会員数 55名

音楽部会は現在7つのグループで構成されています。以下各グループの紹介をします。

1. TNS ジャズオーケストラ

結成 昭和47年、会員 20名

ビックバンドとして東御市内外で活躍中。ジャズナンバーから童謡、子供から大人まで満足させてくれると思います。

2. ハーモニカクラブ

結成 平成10年頃、会員 13名

生涯学習教室の講座がきっかけで結成。ボランティア活動が中心で、様々な施設で慰問コンサートを続けています。

3. フルートアンサンブル・エオリア

結成 昭和4年頃、会員 4名

クラシック、童謡、ポップスなど幅広く活動しています。演奏の精度の高さはアマチュアの域を超えているともっばらの評判です。

4. ピチカート・アンサンブル

結成 平成15年頃、会員 11名

消防音楽隊で知り合った仲間からの繋がりが広がり、活動しています。リコーダーという馴染みのある楽器を駆使して、常に新しい迫力のある演奏を披露してくれます。



5. サンテラスバンド

結成 平成22年、会員 5名

第3回音楽部会の発表会のために結成した凄腕集団。元プロのサクソやベースが奏でるサウンドは際立っています。ジャズ・ポップスを中心に演奏活動を展開中です。

6. ずくなしアンブラス

結成 平成21年頃、会員 5名

平成24年度に文化協会へ入会したばかりの真新しい若いバンドです。ジャズ、ポップスを中心に演奏活動をしています。

7. あうん

結成 平成10年頃、会員 6名

「あうん」という地味な日本名のポップスバンドです。近隣地域のお祭りやイベントに積極的に参加活動中です。トヨタ、日経主催のバンドコンテスト等にもエントリー、オリジナル曲中心ですが、ヒット曲等も演奏します。

個々の活動はかなり広範囲で書き尽くせませんが、音楽部会全体の活動としては年に1度の発表会「おらほの町の音楽会」（平成24年は7月8日開催）と、総合文化フェスティバルの2回です。日頃の練習の成果をできるだけ多くの皆様にお伝えしたいと思い、会員総出でいつかサンテラスの大ホールを満席にしようと努力を続けています。



ダンス部会

グループ数 17
会員数 195名

ダンス部会この10年間のあゆみを振り返ると、時代の様々なありようが見られます。平成14年(2002年)編纂の30周年記念誌によれば、4グループ47名の会員数が、10年後の平成24年(2012年)にはグループ・会員数共に大きく拡大を見せ、国際色も豊かに現在に至っています。ダンスの世界は、そのまま時代の変遷であり、流行を映す鏡でもあり、その個性的な色彩は会員各位のたゆまぬ努力、研鑽の軌跡であるといえるでしょう。

ここに平成23年度末における加盟グループを、加盟承認年代順に、ジャンルと共にご紹介いたします。

昭和54年度	東御市ソーシャルダンスクラブ 社交ダンス(平成23年度末退会)
平成12年度	東御市フォークダンスクラブ フォークダンス
平成17年度	東御レインボー 手話ダンス
平成17年度	サンフラワーズ 手話ダンス
平成17年度	ドリーム 社交ダンス
平成18年度	東御市クラシックバレエ研究会 クラシックバレエ
平成18年度	アロハ・フラ・レファ フラダンス
平成19年度	ダンスサークルみまき 社交ダンス
平成19年度	SPIRIT B ジャズダンス・ヒップホップ
平成19年度	SPIRIT R ジャズダンス・ヒップホップ
平成20年度	ロケラニ(マハナニアイナ) フラダンス

平成20年度	プアチューバローゼ フラダンス
平成22年度	アロハ・クワイ フラダンス
平成22年度	ストリートダンスチームGX ヒップホップダンス
平成22年度	トウミAKBB ヒップホップダンス
平成22年度	レア・フラ・マーラマ フラダンス
平成22年度	すみれ フォークダンス・健康体操
平成23年度	長野ベリーダンススタジオ ベリーダンス

世界は一層のグローバル化が進み、各国のダンスが次々と新しいジャンルとして登場しています。一方、健康促進を目的としながら、身近な気の合う仲間同士気軽に楽しむダンスもあり、それぞれの年齢層や活動状況に合わせての再結成等、グループ数は年々増加を続けています。無理のない活動内容を体力とご相談いただきながら、生涯にわたって末永く継続されることが何よりの理想です。

当部会の中で最長の加盟歴32年間の後、昨年度末に惜しまれつつ解散された東御市ソーシャルダンスクラブは、東御市中央公民館の建設以前にグループを結成、以来毎週の練習・発表会に充実した活動を展開。それぞれの体調等のご事情により、今後休養を取られる方、所属グループを変更し継続される方と、様々な道を進まれるとのこと。これまで長年の活動を続けられた功績を讃え一旦幕を降ろしますが、会員一同様の次なる活躍にご期待申し上げながら、一時の幕間の時間をお過ごしただければと思っております。

これからも、多様なライフスタイルに合わせて、全ての国の全ての皆さんがダンスという共通言語を操りながら交流の機会を持ち、生活を美しく彩り、充実した日々の暮らしを営んでいかれることを願ってやみません。歓迎の扉はいつでも開かれています。

棋道部会

市内会員 45名
市外会員 8名

棋道部会には、「囲碁グループ」と「将棋グループ」があります。

一、日本棋院・東部支部の発足

昭和47年（1972年）8月、下村茂夫氏、細萱照明氏、山浦靖夫氏の御尽力により27名の会員を集って発足し現在に至っている。

役員の変遷

年	支部長	幹事長	会 計
昭和47年～	下村茂夫	細萱照明	山浦靖夫
53年～	細萱照明	射手伝太	土屋武道
59年～	福島芳左	吉沢 亨	掛山昌生
62年～	中沢喜雄	〃	〃
平成2年～	吉沢 亨	東城武利	白石三郎
8年～	深町 亘	山岸利夫	〃
10年～	塚田悦郎	〃	田中政徳
12年～	関賢一郎	横関雅徳	〃
16年～	〃	〃	正村雄治
17年～	塚田悦郎	〃	〃
20年～	増田宣夫	〃	小林和夫

二、主な年間事業等と特徴

市当局を初めとして、市内の各方面からの「囲碁」の普及活動に理解とご支援を賜り、各種の大会を行なっています。

- 1、市長杯（合併までは、町長杯）
- 2、文化協会長杯
- 3、支部長杯
- 4、東京・大田区との交流囲碁大会

平成24年で14回目となります。



- 5、下村杯
支部結成に御尽力された下村茂夫氏を顕彰した大会
- 6、コトヒラ杯
コトヒラ工業（株）の協賛による大会
- 7、月例会
毎月第二土曜日、中央公民館で行なっています。
- 8、その他
ネンリンピック東信地区大会、東信地区本因坊戦等々。
- 9、昨年（H.23）東御清翔高校で授業の一部として「囲碁」の時間を設けて頂き協力させて頂いた。興味を持ち続けてくれる事を期待し、願っています。



お願い

各種大会は、会員以外の方でも自由に参加できます。初級者の方も大勢参加しています。

「囲碁」の歴史は、4千年とも言われ「琴棋書画」は君子の嗜みの一つとも。また、囲碁より面白いゲームは出てこないとも言われていますが、所詮は（勝ち、負けを争う）ゲーム、孔子が論語のなかで『腹いっぱい喰ってポーと一日を過ごす位なら囲碁でもやっていた方がましだ』と言っているそうです。

気軽に御参加ください。まっま〜す。

文芸創作部会

グループ数 5
会員数 31名

奥村 直

部会及びグループ紹介

文芸創作部会は、昭和62年（1987年）に創立された、文字どおり文芸鑑賞、創作等のグループの集まりです。創立以来二十数年、その間いくつかのグループが誕生し、あるいは去っていきました。極めて守備範囲の広い部会ですから、ひとつとして同じ方面のグループはありません。

紙芝居の制作と実演のグループ。英国文学を原文で読み合うグループ。同じ英国文学でもシャーロック・ホームズを専門に研究する、いわゆるシャーロッキアンが集まったグループ。朗読の研究と読み聞かせを勉強しているグループ。国際語エスペラントを学習研究しているグループ。どれも皆独特の分野で独特の活動をしています。

ですから、部会までまとまってなにかのイベントを実施することは先ず不可能なのですが、それぞれ独自の発表を企画する、発表の場を創る、といった活動があってもいいのではないかと。そこで、昨年の文化フェスティバルには、展示発表だけでなく、ステージ発表も実行しました。一部のグループだけでしたが、次回は全グループで発表できたらいいな、と思っています。

① 地域文化研究会 かぼちゃの会（創立昭和62年？）

会員 6名

東御市に伝わるお話を大型紙芝居や人形劇にして、公共施設などで開かれるイベントで発表します。

② 英語で外国童話を読む会（創立平成10年？）

会員 4名

外国の童話を、英語で読む会。ここ数年がかりでJKローリングの「ハリー・ポッター 賢者の石」を読了しました。次は何を読むか検討中。

③ シャーロック・ホームズと親しむ会（創立平成13年）

会員 9名

シャーロック・ホームズ愛好家の団体としては長野県唯一なのだそうです。メンバーにはJSHC（日本シャーロック・ホームズクラブ）の会員も何人かいます。

④ 声に出して本を読む会 ほたる（創立平成15年）

会員 9名

市保育施設、学校、社協、グループホームなどの施設へ読み聞かせに通っています。読みを深め、絵本の心を聞き手に届けられたら幸せだと思います。

⑤ エスペラントとうみ（創立平成17年）

会員 4名

国際語（世界語）「エスペラント」の初歩を学び、エスペラントで書かれた童話、民謡、小説、雑誌などを読みます。



邦楽部会

グループ数 17
会員数 139名

(グループ紹介 50 音順)

箏 [お箏の会] 部員 14名

三絃や尺八を交え古典から新曲まで様々なジャンルに挑戦。地域のイベントやボランティアも積極的にいき、楽しんでいます。

三味線 [オーロラ] 部員 5名

昨年入会。私共は月2回を稽古日と決めて三味線を始め、民謡や歌謡曲等何でも弾きたいと一番の目的は親睦で頑張っています。

三味線 [音和会] 部員 10名

長唄の三味線は奥が深くしきたりとか細かい所作等の難しさを感じ、月2回の稽古と個人レッスンにも励んでいます。

大正琴 [オレンジ] 部員 6名

発足して一年、大正琴を通して和やかに、楽しくチームワークを大切にして、日々練習に励んでいます。

箏 [金蓮花会] 部員 5名

生涯学習とし発足しました。熱心な指導者の下で練習を重ね上達しました。古曲は難しいですが現代の名曲も楽しんでいます。

大正琴 [グレープ] 部員 9名

グレープは大正琴の基本となりうるグループです。合奏曲を主にして人数が多いのでとても良い音になって夢があるグループです。

大正琴 [こま草会] 部員 8名

私達も年月を重ね気力は充分、習い始めた頃の新鮮な気持ちを失う事なく、仲良く、無理せず楽しくをモットーに頑張っています。

大正琴 [G ストリングス] 部員 5名

気の合った仲間と大正琴を楽しんで、より多くの曲に出会い夢や希望を楽しみに変え心豊かな人生を前向きに生きたいと思えます。

尺八 [尺八コラポ] 部員 5名

琴古・都山の二流派で結成し2年目です。あまり堅苦しくなく心地よく聴かせられることを念頭に邦楽の真髄表現を求めて楽しい仲間の箏三絃との合奏にも励んでいます。

大正琴 [東御すばる]

合宿や老人施設訪問、食事会、旅行等行い発表会の時は衣装も考えスター気分で大正琴を楽しんでいます。私達は大正琴を楽しみチームワークの良さは一番です。

大正琴 [なごみ]

22年度に発足して合同発表会にも出演しました。合言葉は「部会の活動に進んで参加しましょう」で月2回の練習に励んでいます。

箏 [二輪奏] 部員 9名

箏と尺八の混合グループです。年度当初に合同発表会の演奏曲目を決め、各々の担当するパートを決め、月2回の練習に励んでいます。

大正琴 [ねむの木] 部員 7名

発足2年目です。月2回の練習です。地域の人々との絆を大切にふれあいを深めています。区民親睦の場においても演奏しています。

箏 [春の虹] 部員 7名

邦楽部会の発足から参加してきたグループで21年目です。石楠花会→春の虹に改称して、週1回の練習にメンバーは箏を楽しんでいます。

大正琴 [ひまわり] 部員 8名

結成して1年半あまりです。月2回の練習で、反省会も兼ねて終わった後の和やかなお茶会が何よりの楽しみの一つとなりました。

太鼓 [御牧太鼓保存会] 部員 10名

私達は、青少年育成を兼ねて近隣の太鼓愛好仲間と交流もしあって太鼓を楽しんでいます。地域のイベントにも参加しています。

鼓・太鼓 [和華鼓会] 部員 7名

鼓太鼓は日本古来の楽器でありながら身近に無い為か手軽に打つ事が出来ません。私達は仲間が増えることを願っています。



23年3月20日第20回目の発表会を実施した

川柳部会

グループ数 1
会員数 15名

一、部会結成と経緯

昭和59年9月、田沢の田中蛙声氏により「とうぶ川柳吟社」として発会した。当時会員は8名であった。

田中蛙声氏を主幹として月例会を開催し、その成果を川柳誌「とうぶ川柳」掲載、発刊した。「とうぶ川柳」は、現在創刊以来通巻第140号を数える。

平成6年から文化協会に加入し、現在に至っている。

二、とうぶ川柳吟社の活動

田中蛙声氏により創設された「とうぶ川柳吟社」の主幹は高齢になられたなどの理由により数人が代われ、現在は、藤井柳昇氏が務めている。

会員は15名で、例会として毎月一回、おもに人権センターを会場に、上田市の青木城風先生の指導を頂きながら開催している。

例会は先に出されている「宿題」3題と会場で出される「席題」1題を2句ずつ提出し、「宿題」2題と「席題」は城風先生、主幹、指名された会員が選者となって選句をして、披講(発表する)し、「宿題」1題は出席者全員の投票により、高点句から発表される。例会では城風先生から作句についての注意点や先輩会員の指導もあり、和やかな中で研鑽を積んでいる。

例会の成果は偶数月に発行する川柳誌「とうぶ川柳」に掲載され記録されている。また、年1～2回は温泉地等で例会を行い、より一層会員の親睦を深めている。

その他、田中駅待合室へ2か月ごとに課題句を掲出して利用者を楽しませている。また近隣の友好吟社主催の大会や県川柳連盟主催県大会へも参加して、交流と研鑽に努めている。

三、今後の課題と展望

「とうぶ川柳吟社」には発足時からの会員が現在も元気に活躍されていて頼もしいことである。高齢者が多いが、若い人の加入が待たれるところである。

会員の丸山孔雀氏が滋野で講座を夜開催している。文化協会へ加入しているので、今後川柳愛好者が増える事を期待するものである。

とうぶ川柳吟社 会員作品

課題「空」(平成24年5月)

ミサイルの発射空から見張られる	柳昇
事件事故空おそろしい風が吹く	望岳
金環の天空ショウの眼鏡買う	湧泉
日食の日時が判る不思議空	孔雀
開拓の廃屋残る夏の空	夢
五月空少子化映る鯉轍	友子
孫自慢又かとみんな上の空	秀湖
トキ誕生虹が懸った佐渡の空	初江
翌檜の夢を育む五月晴れ	紋子
大空に招かざる客黄砂まう	道順
肩並べ夜空を眺め語りあい	直子
スカイツリー青空向いて凜と建ち	悦二
子は宝五月の空に鯉のぼり	方右
空白の記憶が怖い二日酔い	幸男
おもいきり青空蹴って逆上がり	翠子

滋野川柳講座 受講生作品

課題「和む」(平成24年6月)

カレンダー赤ペン妻の予定見え	和彦
来賓で祝辞と言われ落ち着かず	茂
掛け流し湯山並み遠く足伸ばす	一明
孫笑んで白い乳歯が可愛いね	タツエ
お得意のギャグで万座を和ませる	進
退院し家族揃って祝い膳	洋子
リフレッシュ心も和むマッサージ	幸雄
鯉のぼり風を吸い込み高く舞う	厚子
鍋囲み箸忙しく競い合い	洋



カラオケ部会

グループ数 20
会員数 185名

1、部会の結成と経緯

カラオケ部会は、音楽部会から独立したのが平成8年ですので、結成して16年が経ちました。平成24年度のグループ数は20グループで、185名の会員数とともに文化協会の中で、最大規模の部会となっております。

2、その後の経過と主な事業

平成8年、第1回発表会が東部町中央公民館で開催されました。当時の参加者は、40名位だと思えます。第5回まで、中央公民館での開催が続きましたが、徐々に参加人数が増え、東御市文化会館（サンテラスホール）をお借りする規模になりました。750名収容の大きなホールは、鮮やかな照明とすばらしい音響のステージで、誰しもがプロ歌手になった気分になれます。

3、主な年間事業

毎年8月の第4日曜日に、カラオケ部会発表会が、開催されております。より良い発表会にするべく毎年3月より役員会を重ね、新しい企画等の話し合いが行われます。一昨年は15周年を記念して、フラダンス部の皆様方が華やかな衣装とダンスによりステージに花を添えていただきました。

4、今後の課題

私達のカラオケ部会は、グループ数・会員数が多いため、一同に集まれるのが発表会の1回だけという状況です。1年を通して何回かは親睦を持てるようにしたいと考えております。また福祉施設に訪問させていただき歌を通じて、楽しい時間を共有できれば幸いであると考えております。

5、カラオケ雑感

カラオケの人口は、4500万人以上いるとも言われております。カラオケには、ストレス発散、腹式呼吸でのダイエット、脳活性によりボケ防止など様々な効果があると言われ、人気の理由がわかります。

●カラオケ上達のためのポイント！

- 1、まず元歌をよく聞きましょう。
- 2、伴奏をよく聞くようにしましょう。
- 3、マイクの使い方を覚えましょう。
- 4、元気に大きな声で歌いましょう。

心からカラオケを楽しんで、さらなるステップアップを目指し精進し、新しい自分を発見して下さい。

我々のカラオケ部会では、メンバーの平均年齢が高くなってきております。志を同じくする若い世代の方々にも仲間に入っていただき、歌を通じて交流の輪を広げていけたらと思います。



教養部会

グループ数 2
会員数 20名

一、東御市郷土史研究会 会員数 20人

1. 部会の結成と経過

昭和47年に発足した古文書研究会は、地域の郷土史研究者や愛好家・小中学校の先生などが、地域に残された古文書を通じて郷土史を学習したことに始まる。その後、古文書研究会と郷土史研究会が分かれて活動し、20数年が経過した平成10年度に東部町郷土史研究会として東部町文化協会に加盟した。平成16年度の東御市の発足と同時に会の名称も東御市郷土史研究会になったが、北御牧地区の会員はいなかった。約1年かけて仲間集めをして、平成17年には5地区そろった会員での活動が始まった。

このころ文化協会の組織再編が行われ、「郷土史部会」から「教養部会」の1グループとして「パソコンクラブ」と共に、2グループの小さな部会としての活動が始まったが、それぞれ独自の活動を行っている。

2. その後の経過と主な事業

- (1) 平成14年度まで「あゆみ」に詳しく記載されているので、その後の経過の概略をまとめてみた。平成15年度は、合併する旧北御牧村の文化財を知ろうということで、2回にわたり北御牧の文化財めぐりを行った。長岡克衛先生と、石川好一先生による違う視点からの解説は、とてもわかりやすかった。と同時に、北御牧の仲間づくりに動き始めた。
- (2) 平成16年度から17年度にかけては、東御市郷土史研究会として少しずつではあるが確実な活動が定着し始めた。年1回の総会と、年2回の視察研修・関連する諸団体との活動を、毎年行った。
- (3) 平成18年度から20年度にかけても、上記と同様な活動を続けたが、上田・東御・小県地域史連絡協議会が本格的に活動を始め、会員の多くが関わって、東御市に残された古文書の調査を行った。
- (4) 平成21年度から23年度は、事務局長が多忙を極め、会員の高齢化にも拍車がかかり、年2回実施していた視察研修を、1回はバスを利用した視察研修・1回は会員の自家用車乗り合わせで、地元の文化財・史跡の視察研修に切り替えた。意外とこれが好評で、今まで通りすぎ

ていた場所にある文化財等に目が向き始めた。このことが、各地区・区などの名所・旧跡などをまとめた冊子の発行の原動力になったのかもしれない。ちなみに、上田・東御・小県地域史連絡協議会による東御市長への古文書館の設置の要望書も出され、市当局もやっと重い腰を上げた。

- (5) 平成24年度には、3月の総会で「丸山清俊と郡村誌」と題する児玉卓文先生による講演会が行われ、夏の視察研修は埼玉県の「稲荷山古墳」から出土した刀（宮入法廣匠が複製品を作成した）と古墳群の視察を行うことが決まった。と同時に、長い歴史の中で初めて会長が女性になり、今後の新たな歴史が始まる予感を感じているのは、私だけではないと思う。

二、ひだまりパソコンクラブ 会員数 9人

1. クラブの結成と経過

中央公民館が主催する「いきいき生涯学習塾」の講座の一つとして一年間活動をした13人が、さらにパソコンについて様々な学習を続けたいという仲間を集い、文化協会に加盟して活動を続けて参りました。東御市の発足に伴い、東御市文化協会になり、「教養部会」に再編され、「東御市郷土史研究会」と2グループの部会として活動してきました。

2. その後の経過と主な事業

会員の個人的都合や高齢化などにより、人数は減少傾向にあり、「教養部会」に属して8年余経過した現在の会員は9人と少ないものの、毎月第2・第4木曜日の午前中、中央公民館のパソコンルームで学習を続けています。田澤達人先生のご指導を受けながらの1時間30分はあっという間に過ぎ、みんなで和気あいあいと学習しています。主婦が多いため、今まで10時から11時30分までの教室だとお昼の用意が忙しくなるため、これからは9時30分から11時までに変更することになりました。

3. 今後の課題

パソコンは、学習すればするほど奥が深く、使い方や周辺機器の関連や機種への更新もあって、終わりのない楽しい時間が続いています。しかし、現実には会員の高齢化が徐々に進み、人数は少なくなってきました。また、パソコンルームの確保が難しいことも時々あり、中央公民館の改修工事中の学習場所等多くの課題があります。来春から始まる中央公民館の工事が無事進み、予定通り再開する日を心待ちにしています。